様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２５年　５　月　１６　日現在

機関番号：３２６８９
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2010 ～ 2012
課題番号：22520376
研究課題名（和文）　市場経済下における中国都市文化の基礎的研究

研究課題名（英文）　A Fundamental Study on Chinese Urban Cultures under Market Ecnomy

研究代表者
高屋　亜希　（TAKAYA　AKI）
早稲田大学・文学学術院・教授
研究者番号：20277784

研究成果の概要（和文）：
1990 年代末に出現した中国都市文化について、従来の研究では文化産業政策や消費の理論から語られることが多く、産業化以前の具体的な状況はほとんど解明されていなかった。中国都市文化の創作を動態的に理解するためには、産業化以前から文化活動に関わった若者たちの動きやその作品を把握する必要がある。本研究は、中国都市文化を都市の若者たちによる文化活動、若者たちが創り出す作品という観点から分析し、都市の若者たちがどのように海外の大衆文化に触れ、新しい都市文化を形成していったかを、ロックやライトノベルを例に明らかにした。

研究成果の概要（英文）：
Almost all preceding studies for Chinese urban cultures that appeared at the end of 1990's are based on a model of industrial policy or consumption, actual works and concrete situations of these cultures almost are not analyzed. In order to understand dynamic creations of Chinese urban cultures, it is necessary to know the activities and works by Chinese young people who enjoyed and participated in cultural activities before industrialization. This study mainly has analyzed rock musics and light novels, and illustrated the ways to import foreign popular cultures and create new Chinese urban cultures among these young people.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2010 年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2011 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2012 年度	700,000	210,000	910,000
総　計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：中国現代文学、中国現代文化
科研費の分科・細目：各国文学・文学論
キーワード：中国現代文化、大衆文化、サブカルチャー、ライトノベル、マンガ、ロック

１．研究開始当初の背景

1990 年代以降、中国で進展した市場経済化にともなう急激な経済成長は、社会のみならず文化にも多大な影響をおよぼした。経済力を蓄えた都市の新興中間層が文化の消費主体として浮上したことに加え、プロパガンダを任務としていた中国の文化システムが市場化に対応するために大規模に再編されたことから、大衆消費文化的性格の強い新たな都市文化が、2000 年前後に形成されるに至っ

た。この形成と間髪入れずに、政府が文化産業を制度化する取り組みを始めたことが、中国都市文化の大きな特徴となっている。

そのため学界でも都市文化を産業構造として把握する研究が多く、既に国内外で基礎的な制度研究の成果が公刊されている。しかし、これらの研究は、中国で都市文化が顕在化した 2000 年前後より以降の文化現象に関心が集中しており、それ以前の 1980～1990 年代は都市消費文化や文化産業が未成熟だった前史として位置づけられ、具体的な文化活動や作品の研究はほとんど進展していなかった。

だが実際には、一部のインテリは 1980～1990 年代、あるいは文革中から、外国人との接触や海賊版などを通じて海外の都市文化に触れ、私的な交友関係の中で情報を交換し、創作活動を行ってきたことが、2000 年以降に出された回想文などによって、徐々に明らかになってきている。こうしたインテリの趣味的な創作活動に研究の焦点をあてていくことは、これまで消費の側面からのみ着目されていた中国都市文化を、作品論や創作活動の視座から把握する基盤となるものであり、中国都市文化を動態的に把握するためには欠かせない視角である。

２．研究の目的

本研究は、1990 年代以降、新たに出現した中国都市文化形成の全容把握を念頭に、以下に掲げた 4 点の解明・達成を目指した。

(１)現代中国都市文化形成におけるインテリの役割の解明

中国都市文化の形成は 1980～1990 年代に海外(台湾・香港を含む)文化に学んだ一部インテリによる試みに起源し、1990 年代以降の市場経済化を背景として公認・定着したとされるが、詳細な状況は必ずしも明らかではない。本研究では、中国都市文化について、海外から文化情報がもたらされた経路、インテリのサークルでの情報交換や受容の実態、二次創作などの表現の特色、さらには政府の公認に至る経緯について、事例研究を積み重ね、都市文化形成に果たしたインテリの役割を具体的に解明する。

(２)現代中国都市文化形成におけるインターネットの役割の解明

インテリの趣味的サークル活動の中で蓄積されてきた海外都市文化の情報は、1990 年代末のインターネットの登場によって、広く社会に情報発信され、都市文化形成を促す大きな要因となったとされる。しかし、個々のインテリやサークルのインターネットとの関わりなど、詳細はほとんど解明されていない。本研究では、いくつかの文化サークルがインターネットを通じて、どのようにサークルメンバー以外の不特定多数と向き合い、新興の文化産業への再編の動きに対処したのかについて事例研究を行う。それによって、都市文化形成にインターネットが果たした役割を具体例に則して解明していきたい。

(３) 産業化による中国都市文化表現の変化の解明

2000 年前後に都市文化の産業化が進展する中で、それ以前にインテリのサークル等で行われてきた表現の実践が、どのように継承されていくのか、あるいは変質していくのか、といった問題について、具体的な事例を選定し、研究を行うことによって、初歩的な見取り図を得ることを目指す。

(４)中国都市文化研究ナレッジベースの構築

本研究の過程で得られた知見を総合して、インターネット上にナレッジベースを構築する。ナレッジベースには、文化関連タームや新語・人名・作品等の解説、web サイトやドキュメントへのリンク、執筆・翻訳された論文や評論の全文などを登録する。それらを有機的にリンクさせることで、新たな知見を発見しうる現代中国都市文化の研究インフラとなることを目指す。

３．研究の方法

前項に掲げた本研究の 4 点の目的のうち、(１)～(３)についてはマンガ・アニメ・ライトノベル・娯楽映画・ポピュラー音楽など、現代都市文化の中から具体的なテーマを選定し、事例研究を積み上げる形で解明する。具体的な方法は以下の 4 点にまとめられる。

(１)現代都市文化形成を担ったインテリ数名について、事例研究を積み重ねる。
(２)現地聞き取り調査・インターネット調査による回想資料の収集を行う。
(３)インテリのサークル活動から産業化以降までの創作活動について、表現上の特徴と変化について分析を行う。
(４)現代中国都市文化の基礎資料を翻訳、紙媒体・インターネットで公表し、有機的な研究インフラを整備する。

資料収集にあたっては、雑誌記事などの文献資料調査のみならず、現地調査を実施して都市文化の担い手たちの証言を収集する。また、現代中国都市文化はインターネットの登場によって形成が促された経緯を持つこともあり、重要な評論や回想などが紙媒体よりもインターネット上に発表される傾向が強い。このため、ネット情報調査にも力を注ぎ、文献調査・現地調査と相互補完しつつ資料収集を進めた。

研究代表者・分担者がそれぞれ分担して予備的な資料収集作業を行い、現代中国都市文化の中から具体的な研究対象を選定した。その結果を踏まえて、上海・北京で現地調査を実施し、一次資料を収集、さらに雑誌記事やインターネットドキュメントの収集を進めた。現地調査については、現代文化研究者である上海同済大学の朱大可・張閎教授に協力を依頼した。

また本研究では、現代中国都市文化研究の基礎を確立するため、収集した文字資料から現代中国都市文化研究にとりわけ有意義であると認められたものを選定し、現著者の許諾を得た上で、日本語に翻訳し蓄積する作業を行った。

同時に、本研究の研究成果をインターネット上に随時公表するために、ナレッジベースの設計を進めた。

４．研究成果

中国都市文化を理解する手がかりとして、ロックとライトノベルからテーマを選定し、事例研究を行った。

中国においてロックが都市文化に取り入れられたのは遅く、1990 年代後半から 2000 年代初のことである。ロックが中国に初めて登場した 1980 年代後半から市民権を得るまでの約 10 年間、ロックは限られた人々の間でしか受容されていなかったが、その一方で受容の裾野を広げる動きが進行していた。

工業用プラスチックの原料として中国に輸入された海外音楽のカセットテープやＣＤのカット版(打口帯・打口碟)が地下で流通し、正規輸入ルートでは流通していない海外音楽に触れる貴重な機会となったのである。これが中国のロック愛好者を開拓するとともに、ひいては流通に関わった売人たちの中から 1990 年代後半以降に音楽界で活躍する人材を数多く輩出した。都市娯楽文化としての中国ロックを考える上で、カット版はきわめて重要である。

本研究では、中国におけるカット版流通の歴史的経緯や状況を整理した上で、音楽批評家の王小峰、新蜂音楽社経営者の付狲、ロックバンドの麦田守望者楽隊など、流通に関わった売人たちで、かつ後に音楽界で活躍することになったインテリを具体的な事例として分析した。分析の結果、得られた結論は以下の通りである。

（１）海外音楽の輸入が制限され、海外ロックの全体像が把握できない状況下でカット版の流通が行われていたため、海外での評価に触れることができたインテリによる音楽批評活動は、どの音楽をどのように鑑賞すべきかという指針になると同時に、カット版を売る際の値付けにも大きな役割を果たしていた。その音楽批評活動は中国において新たな音楽市場を開拓するとともに、ロックの社会的意味付けを変える役割も担っていたことになる。

（２）カット版愛好者の中からアマチュアのコピーバンドが形成されたが、そうしたアマチュアによる趣味・娯楽としての音楽活動そのものが、都市的な新たなライフスタイルとして意識されていた。こうした音楽活動を担ったのは主に、1960 年代後半から 1970 年代前半に生まれた世代であり、それが音楽好きの若者が集うライブハウスの形成にもつながっていった。

（３）（２）で上述したカット版愛好者の中からは、新たなライフスタイルを啓蒙、普及させようという動きが起こり、元々カット版の売人・愛好者の間にあったネットワークを利用する形で、「北京新声」など、1990 年代後半以降の産業化の動きにつながっていった。こうした動きは 1990 年代後半には社会的に大きなインパクトを持ち得たものの、2000 年前後にはそのインパクトは薄れ、相対的に彼らの社会的役割は低下していく傾向が認められた。2000 年以降、インターネットが普及し、海外音楽をより簡便に入手できる環境が整っていくこともその一因と考えられる。

カット版が中国の音楽愛好者に大きな衝撃を与えたことについてはこれまでも認識されてきたが、1990 年代の音楽活動や音楽作品に対して具体的にどのような影響を与えたかという点については先行研究がほとんどなく、本研究が明らかにした知見は非常に重要なものである。今後、分析の範囲を広げ、都市娯楽文化としての中国ロックを体系的に研究していくための見取り図が得られたことの意味は大きい。

中国ライトノベルについては、2000 年代半ばに韓国ライトノベルの中国語訳（クィヨニ『あいつ、かっこよかった』）が若者たちの間で人気を呼んだことに端を発し、その強い影響下で中国でも模倣作が生まれ、わずか数年のうちに飽和状態となるまでに市場が急成長した。ライトノベルの人気は高く、新たな中国都市文化の中でも重要なジャンルと言えるが、ジャンル全体を把握する先行研究は皆無であった。

本研究では、すでに数多く創作・刊行されている中国ライトノベルについて、その作品の内容からさらに幾つかのジャンルに分類し、全体の見取り図を作成した。得られた結論は以下の通りである。

（4）各ジャンルの特徴と形成の過程を整理したことによって、ジャンル形成に影響を与えた海外のマンガやライトノベル、また同ジャンルの海外作品などと具体的に比較し、中国ライトノベルの特徴を分析することが可能になった。例えば日本のマンガ・アニメを模倣した中国ライトノベル作品の多くは、クィヨニ流に書き換えられる傾向が見られるなど、数多くの知見が得られた。

（5）日本のマンガ・アニメからの影響が指摘される若手作家の郭敬明について、その代表作『幻城』が日本のマンガ家 CLAMP の作品『聖伝』のどの部分を模倣しているのかを具体的に分析した。それによって、郭敬明など 1980 年代生まれ世代の若者の意識・志向が明らかになるともに、郭敬明の作品と中国ライトノベルとの相違点も明確になり、中国ライトノベルに包含される作品群の境界が明らかになった。

中国ライトノベルについては、インターネットが普及するなど、海外文化に触れることが容易になってから形成されたジャンルであるため、産業に組み込まれない時代が長かったロックとは、インテリの関わり方は異なる。ライトノベルの出版、ひいては産業化においても、1960～1970 年代生まれ世代の出版エージェントが関係し、大きな役割を果たしたものの、彼らが創作に関わっていた時期とライトノベル登場の時期にはズレがあった。

膨大な作品が蓄積された中国ライトノベルについて、全体の見取り図が作成されたことの意味は大きく、例えば中国ライトノベルに影響を与えた台湾ライトノベルとの関係や相違など、今後、具体的な作品論を行う上で欠かせない基礎資料となる。

また、文化政策や思想動向、文学、テレビ、映画、メディア、ファッションなど、21 世紀ゼロ年代の文化状況、およびその社会背景や歴史的経緯を考える上で重要な中国の批評論文 17 篇を翻訳した。

その他、文学・映画・演劇・音楽などジャンルごとに 2001～2007 年の中国文化状況をまとめた年鑑『Chinese Culture Review(中国文化総覧)』を以前から翻訳・刊行してきたが、引き続き 2008 年の状況をまとめた第 7 巻を 2010 年度に翻訳・刊行した。更に 21 世紀ゼロ年代の中国文化状況を総括する基礎資料として、これら第 1～7 巻のうち重要なキーワードをまとめた書籍を刊行するため、その作業を進めており、2013 年度中に刊行する予定である。

研究成果をインターネット上に公開するナレッジベースについても設計、およびデータの成型作業を行った。試験的に内部でのレビューを行い、その問題点を洗い出した。問題点を修正した上で、約 1 年後の公開を予定している。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 20 件）

① 高屋亜希、現代中国における海外ポップカルチャーの受容――ロックを例にして、多元文化、査読無、第 2 号、2013、pp147-165

② 高屋亜希、「北京新声」の背景――花児楽隊の登場を支えた人脈、中国同時代文化研究、査読無、第 5 号、2012、pp. 4-24

③ 張閎、高屋亜希訳、欲望という名の電車――三十年にわたる文化の変遷、中国同時代文化研究、査読無、第 5 号、2012、pp25-39

④ 張閎、高屋亜希訳、流行の暗号――チャイナドレス、レーニン服、カプチーノ、ハーゲンダッツ、ボボズ、中国同時代文化研究、査読無、第 5 号、pp40-60

⑤ 張閎、高屋亜希訳、「怒れる若者」の変遷、中国同時代文化研究、査読無、第 5 号、2012、pp91-105

⑥ 朱大可、高屋亜希訳、漢字の革命と文化の断絶、中国同時代文化研究、査読無、第 5 号、2012、pp205-211

⑦ 朱大可、高屋亜希訳、中国現代建築の非国家主義化、中国同時代文化研究、査読無、第 4 号、2011、pp4-24

⑧ 張檸、高屋亜希訳、上海市民の身分への焦り――『さよなら、ビビアン』論、中国同時代文化研究、査読無、第 4 号、2011、pp45-58

⑨ 陸興華、高屋亜希訳、『上海ベイビー』西洋に来る、およびその他、中国同時代文化研究、査読無、2011、pp25-44

⑩ 張閎、高屋亜希訳、いつの時代にも「反逆者」像は創られる――一九八〇年代生まれ世代の作家について、中国同時代文化研究、査読無、第 4 号、2011、pp59-63

⑪ 張檸、高屋亜希訳、青春小説とその市場的背景、中国同時代文化研究、査読無、2011、第 4 号、pp64-80

⑫ 王暁漁、高屋亜希訳、「一九八〇年代生まれの作家」をめぐる三重の「ゲート」、中国同時代文化研究、査読無、第 4 号、2011、pp81-89

⑬ 王暁漁、高屋亜希訳、衛慧：身体のパフォーマンス、中国同時代文化研究、査読無、2010、第 3 号、pp27-40

⑭ 張閎、高屋亜希訳、文化博徒の「砂金採

り時代」、中国同時代文化研究、査読無、2010、第 3 号、pp40-46
⑮ 王暁漁、高屋亜希訳、「春節交歓の夕べ」の「召喚」システム、中国同時代文化研究、査読無、2010、第 3 号、pp76-92
⑯ 張閎、高屋亜希訳、スーパーガール――集団的な錯乱から行き過ぎた開発まで、中国同時代文化研究、査読無、第 3 号、2010、pp92-101
⑰ 張念、高屋亜希訳、マイク工場とその神話――中国のテレビシーンをめぐる素描、中国同時代文化研究、査読無、第 3 号、2010、pp102-122
⑱ 張閎、高屋亜希訳、中山狼の戯言――『狼トーテム』およびその他を評す、中国同時代文化研究、査読無、第 3 号、2010、pp170-180
⑲ 王暁漁、高屋亜希訳、動物農場における「冷器の思考」、中国同時代文化研究、査読無、第 3 号、2010、pp181-193
⑳ 山下一夫、中国ライトノベルとは何か、中国同時代文化研究、査読無、2010、第 3 号、pp4-26

〔学会発表〕（計 1　件）
① 高屋亜希、現代中国における海外ポップカルチャーの受容――ロックを例にして、早稲田大学多元文化学会、2012 年 6 月 2 日、早稲田大学

〔図書〕（計 2　件）
① 高屋亜希、千田大介、山下一夫、好文出版、中国同時代文化小辞典、2013、p400(予定)
② 千田大介他、好文出版、電脳中国学入門、2012、p230

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
高屋　亜希（TAKAYA　AKI）
早稲田大学・文学学術院・教授
研究者番号：20277784

(2)研究分担者
山下　一夫（YAMASHITA　KAZUO）
慶應義塾大学・理工学部・准教授
研究者番号：20383383
千田　大介（CHIDA　DAISUKE）
慶應義塾大学・経済学部・教授
研究者番号：70298107

(3)連携研究者
なし